

令和8年
県産品奨励月間標語

広めよう 世界へ羽ばたく 県産品

拓伸会会報(隔月発行) 拓南本社内『たくしんNEWS』編集委員会
〒900-0025沖縄県那覇市壺川3の2の4 [拓南ビル3F] TEL.098-831-8228 FAX.098-832-0586

【真南風】南から吹いてくる風。オモロ原注に「南風の事」とある。『沖縄古語大辞典』(角川書店)より



古波津製造業育成基金

伊江玲美氏(アナンティア)に技術功労賞 産業育成助成は18年ぶり



表彰状を受け取る伊江氏=拓南本社応接室

沖縄県の製造業振興を助成する古波津製造業育成基金(古波津昇理事長)は6月9日、拓南本社応接室で、令和8年度(第34回)の表彰式を行った。現地審査会(4回)を含む厳正な審査の結果、技術名称「循環の価値 次世代への伊江玲美氏(アナンティア)取締役ファウンダー」が「技術功労賞」を受賞した。「製造業起業賞」の該当者はなかった。また、「人材育成助成・産業育成助成」のうち、「産業育成助成」で18年ぶりに該当者があり、2団体(おきなわ農業漁業事業協同組合・ワキユウマッシュルーム)に助成金が交付された。



(左から)仲間氏(座間味氏の代理)、島元氏、伊江氏、高橋氏、古波津理事長

コンソーシアム構想も評価

表彰式は当初、6月2日の沖縄県工業連合会の定時総会で行う予定だったが、台風襲来で延期された。席上、古波津理事長があいさつに立った。バイオ、バナナ、マッシュルームをそれぞれのテーマにした受賞者等に対し、「実は、創業者も農業からスタートし、起業にいたった」と感慨を述べ、大いに祝福した。

「本企業(アナンティア)は、バクテリアを活用したウィーガンレザー(動物由来の原材料を使わずに作成した人工的な皮革)製造を実現し、沖縄県産の黒糖や廃糖蜜など地域資源を有効活用している。また、沖縄県内にはない、なめし・繊維産業などの関連産業とのコンソーシアム(協同体)構想を推進し、県内産業の集約化と雇用創出を目指している。サーキュラーエコノミー(循環経済)の実現と地域産業連携によるサプライチェーン(供給連鎖)構築は、県経済の持続的発展に不可欠であり、その先導企業として支援する価値が高いと判断した」

一方、「人材育成助成」では、なほ市少年少女発明クラブ(座間味勲会長)に助成金を授与した。

がまんと頑固さのたまもの

表彰式後、記者会見が行われた。

「技術功労賞」の伊江氏は、地元2紙の記者から、技術の特徴、開発に至るまでの試行錯誤、今後のビジョンや目標などについて質問を受けた。2頁の「トピックス」に掲載記事。

また、古波津基金から受賞の連絡を受けた際の思いを次のように振り返った。「まさにモノづくりをしている代表的な企業(拓南グループ)の財団法人が、私たちのモノづくりを評価してくだ



開発したヴィーガンレザーを理事長に説明



地元紙の質問に答える伊江氏

さったことが一番うれしかった。この受賞は、工場に働いているスタッフたちの繰り返し挑戦、苦勞、がまんそして頑固さのたまものだと感謝している」

10万円を交付した。また、「産業育成助成」で今回、18年ぶりに該当者(2件)があり、県産バナナ絶滅種(グロスマッチェル)の復活を核とした事業を推進するおきなわ農業漁業事業協同組合(島元聡組合長)、沖縄初のマッシュルーム栽培体制確立を実現したワキユウマッシュルーム(高橋和久代表取締役)にそれぞれ、助成金20万円を交付した。

トピックス欄に載る名称、人物の肩書などは、記事を史料として活用するため、原則として当日のものとしします。

古波津基金で記者会見

「技術功労賞」受賞者取材

古波津製造業育成基金の令和8年度(第34回)の表彰式が6月9日に拓南本社で行われた。11頁参照。式典後、記者会見が行われた。

会見では、『沖縄タイムス』『琉球新報』の記者が、「技術功労賞」を受賞したアンティアの伊江玲美取締役フアウンダー、続いて、「産業育成助成」で18年ぶりに助成金を交付されたおきなわ農業漁業事業協同組合の島元聡組合長、ワキユウマツシユルムの高橋和久代表取締役



「沖縄タイムス」6月10日付 (上) 「琉球新報」6月10日付 (左)



「拓南を通して沖縄中を循環」

第41回工場見学会 拓伸会

拓伸会は5月1日、第41回工場見学会を実施した。工場見学会は、リサイクルを通してゼロエミッション社会の実現に貢献しているグループ各社の活動を広く周知するのが目的(年2回実施)。今回は、予約数が前年同月比100人増で、484人が参加した。そこで、ディレクターを務めた拓南本社総合企画部企画管理課の又吉史也氏に今回の工場見学会を振り返ってもらった。また、参加者の中から、宮城そらさん(白い家クリスチャンスクール・中学部3年)に感想を寄稿してもらった。宮城さんは、身近なところで使われている鉄が「拓南を通して沖縄中を循環している」と記している。

電光掲示板がMVPの活躍

拓南本社総合企画部企画管理課 又吉史也

今回の工場見学会も、約8割の方が初めての参加でした。見学者は、特に金融関係の方が多く、次いで学生、官



校、沖縄国際大学経済学部をはじめ、中学生にも来場いただき、若者たちにとって学びの機会となったと感じています。今回の見学会の展示や案内

「広めよう 世界へ羽ばたく 県産品」

県産品奨励月間(7月)スタート

「広めよう 世界へ羽ばたく 県産品」を標語に、「県産品奨励月間」(県産品奨励月間実行委員会)が7月1日からスタートする。月間初の7月1日には、県庁前県民広場で街頭キャンペーンを実施する。9月号で紹介予定。

会の古波津昇会長が会長を務める県工業連合会をはじめ、県内経済6団体(県JIS協会・県酒造組合・県商工会連合会・県商工会議所連合会・県中小企業団体中央会)の代表が6月4日、県庁と沖縄総合事務局を訪ね、県産品の優先使用や公共工事での県内企業への優先発注を要

請した。県庁では、古波津会長が、玉城デニー知事に「地場産業振興への一番の近道は県産品の愛用だ。全県民が一体と

なって取り組む必要がある」と訴え、地元各マスコミが報道し、月間の気運を醸成した。月間は、1954年に「島産品愛用週間」としてスタートし、今回で72回目にあたる。創設については、創業者が著した『起業の心得帖』「チャンスを生かせ」が詳説している。



(上)「琉球新報」6月5日付 (右)「沖縄タイムス」6月5日付

内で、初めて試みたこと、特に力を入れたことなどは、次の通りです。

○初めて試みたこと

・今回から電光掲示板を活用した見学者の番号札呼び出しを導入しました。見学者の誘導や案内を円滑に行う上でたいへん活躍し、今回の工場見学会のMVPとも言える存在となりました。

な取り組みを行いました。担当者による丁寧な説明や呼びかけもあり、運営側としても安心して進行することができました。

○これまで受付で口頭にて行っていた注意事項説明を、今回からAI音声で実施し、業務改善につなげました。

・西原グリーンセンターのポスター展示を初めて行いました。

り付け作業に時間を要しましたので、今回は、事前に、簡易取り付けができる用具を準備したことで設置時間の短縮につながりました。

○特に力を入れたこと

・これまで、呼び出しに気づかなかったお客様が事前説明コーナーへ来られず、スタッフがお客様を探す場面が多くありました。そこで、今回は改善策とし



拓南製鐵 創業70周年を迎えて 夢と誇りを持てる100年企業に

代表取締役社長 八木 実



1956年、創業者の古波津清昇は、戦争の残骸であるスクラップを活用して強固な住宅を広めるため、前身である拓南伸鉄を設立しました。そして、61年には沖繩初の電気炉を建設し、スクラップから鉄筋生産までの一貫メーカーとなりました。77年、工場の周辺の都市化により21年稼働した壺川から浦添に移転。95年には、現在の中城湾新港地区に移転

し、今年6月1日、創業70周年を迎えました。70年代の本土復帰やドルショック・オイルショック・海洋博ショックを経て、86年には鉄鋼ショック、その後のバブル崩壊では、日本経済とりの鉄鋼業界も多大な影響を受けました。特に当社は新工場移転時と重なり、厳しい状況でした。その後、押し寄せる荒波を社は「拓鐵興琉」の精神で乗り切った70年でありました。創業者や先輩方への畏敬の念を大事にし、拓南の歴史を引き継ぎ、地域に密着してまいりました。国内電気炉でも珍しく、主力の異形棒鋼TコロンはD6からD51のフルサイズおよびすべての鋼種をそろえ、

となりました。(結構考えた上でチャレンジしてみただけですが、うまくいきませんでした) 一方で、次回へ向けた課題も見えてきました。特に、案内文書の送付方法や周知方法については改善

さらに、東京鉄鋼と提携したネジテツコン、Tコロンフープやシルバー鉄筋・ATエポキシバー等の常時生産による安定供給に努めてまいりました。拓南グループで取り扱う商品と高付加価値のサービ

必要とされ続けられるよう経営資源を最適化し、経営基盤の強化で、社員の皆さんが夢と誇りを持てる100年企業に向け、拓伸会グループ総力を挙げて取り組んでいきたいと思ひます。



て、胸元にクリップを付けて分かりやすくする取り組みを午前中試みました。しかし、受付作業の効率が低下したため、残念な結果

次回へ向けた課題

昨年より予約数が約100人増えていたこともあり、身の引き締まる思いで準備を進めました。前日準備では昼頃まで大雨となり、開催準備への影響も心配されましたが、午後には雨も止み、無事に準備を進めることができました。

今回は、前回2月開催時の反省点や改善内容を事前に整理することができ、前回より準備や細かい調整を進め

ることはできました。その分、これまで見えていた課題や改善点にしっかりと向き合うことができ、新たな取り組みも試行しながら、運営方法や案内方法を一つひとつ見直すことで、見学会全体の質の向上に繋がったと感じています。

一方、次回へ向けた課題も見えてきました。特に、案内文書の送付方法や周知方法については改善

の余地があるとの意見も挙がっており、今後もWGメンバーで相談を重ねながら、より多くの方に関心を持っていただける見学会づくりに取り組んでいきたいと考えています。また、開催を重ねることに工場見学会の運営品質は向上していると感じていますが、まだ改善すべき点も多くあります。今後も、お客様やスタッフ、現場の声を大切にしながら、さらに良い工場見



学会となるよう取り組んでまいります。今回も多くのスタッフや関係者の協力があったことで、安全かつ円滑に運営することができました。次回もより多くのお客様にご来場いただき、満足していただける見学会を目指していきたいと思ひます。

私たちにでもできることを

白い家クリスチャンスクール 中学部3年 宮城そらさん

見学会では、とても良い体験をさせていただきました。工場は、想像より何倍も大きな規模で、鉄ひとつの素材に対して、色々な仕事があることに驚き、さまざまな廃棄物から、初めて見る重機や手作業で分別する技術に感動しました。多くの身近な物に使われている鉄が、拓南を通して



何より、皆さんが生き生きと働かれていることが印象的でした。質問にも丁寧に回答、説明してくださりました。貴重な機会に感謝します。

製鐵と商事が参加 入賞を果たす

第1回エコドライブ・安全運転コンテスト

うるま市とあいおいニッセイ同和損害保険が主催する「第1回エコドライブ・安全運転コンテスト」の表彰式がうるま市役所で4月13日に行われた。

同コンテストは、環境に優しいクルマ社会づくりに貢献する取り組みで、スマートフォンアプリにより、ゲーム感覚で楽しみながら参加者自身の安全運転技術とCO

2排出削減量の確認ができる。期間は、2月1〜28日の1カ月間だった。同コンテストに、拓南製鐵と拓南商事がそれぞれチームを複数組んで参加し、団体

Bチームが3位に 安全運転の意識向上

拓南製鐵常務取締役 西銘 進

参加のきっかけは、うるま市主催の「会社を守る、マイカー通勤・自転車通勤リスク管理」セミナーへの参加でし



瀬戸支店長と川上哲史社長



中村市長と仲宗根美千代課長代理

《3頁より》
 た。自身の運転実態を把握し、今後の運転に活かしてもらうきっかけになればと、会社車両で外出の多い社員を中心に9人をA、Bの2チームに分け、2月の1カ月間参加してもらいました。

結果、Bチームが(小橋川正弥、仲宗根美千代、比嘉佑介、知念智香)団体の部3位となりました。

Aチームも含め、安全運転意識の向上に大変有意義な期間になったとの意見が聞かれました。今回の参加が、工場内だけの安全意識ではなく出勤も含めた安全意識、交通KYの共有のきっかけにして行きたいと思います。



前列は表彰された皆さん。後列は主催者の皆さん

ダンプのAチームが1位 実力発揮

拓南商事企画開発室 桃原絵理花

第1回エコドライブ・安全運転コンテストに参加しました。拓南商事からは団体の部で3チーム、個人の部で3人がエントリーしました。

うるま市役所で開催された表彰式では、営業部資源回収班(神村亮、数田真也、西原歩、翁長昂)で構成されたAチームが団体の部で1位、川上哲史社長が個人の部で3位となり、表彰を受けました(表彰式は川上社長と神村亮が参加)。

資源回収班で構成されたAチームは、他の参加者が乗用車での運転スコアを測定するなか、スクラップの回収業務で使用するダンプなどの大型車両での運転スコア測定に挑戦し、1位を獲得。普段の運転業務の中で培った安全運転スキルが遺憾なく発揮された結果となりました。

「沖縄おしごと図鑑」で拓南製鐵を紹介

子どもたちが興味を持つきっかけに



贈呈式に参加した神山エリ氏と上原佑斗課長(左から)

サン・エージェンシーと光文堂コミュニケーションズが制作した今年度の「沖縄おしごと図鑑」に拓南製鐵の仕事ぶりが紹介された。制作に協力した拓南本社総合企画部企画管理課の神山エリ氏に、図鑑のプロフィール、掲載のいきさつ、同著の贈呈式・ミニ講話に参加した感想などを寄稿してもらった。

贈呈式・ミニ講話に参加して

拓南本社総合企画部企画管理課 神山エリ

今年度より、拓南製鐵が「沖縄おしごと図鑑」に掲載されました。沖縄県の未来を担う子どもたちへ、県内唯一の製鉄メーカーであり、沖縄の街づくりを支える鉄筋を製造している企業であることを知っていただくきっかけになればとの思いから、今年度より、拓南製鐵が「沖縄おしごと図鑑」に掲載されました。沖縄県の未来を担う子どもたちへ、県内唯一の製鉄メーカーであり、沖縄の街づくりを支える鉄筋を製造している企業であることを知っていただくきっかけになればとの思いから、今年度より、拓南製鐵が「沖縄おしごと図鑑」に掲載されました。

無事に完成へと至りました。掲載ページでは、鉄筋が製造され、社会へ送り出されるまでの工程と、その過程でさまざまな役割を担う社員の仕事について紹介しています。

また、先日、豊崎中学校にて冊子の贈呈式およびミニ講話が開催され、人事部の上原佑斗課長と私が参加しました。32社の企業が参加しており、各教室に分かれて生徒3〜4人のグループを回って、拓南製鐵の仕事内容を紹介しました。子どもたちからの純粋な質問がとてもうれしかったと同時に、私自身も改めて会社への理解を深める機会となりました。また、拓南製鐵が担う仕事の意義や社会における役割を再認識することができました。

今回の取り組みを通して、沖縄県内の企業がそれぞれの立場で地域の暮らしや社会を支えていることを知っていただき、子どもたちが日常の中で少しでも目につく機会が増え、興味を持つきっかけとなればうれしいです。

北陸へ、ジャングリアへ

第9回・第10回社員研修旅行 拓伸会

3月

拓伸会は、第9回・第10回社員研修旅行を実施した。第9回は、北陸の旅(団長・拓南商事の川上哲史社長)で3月16〜19日に実施。グループ各社から34人が参加した。一方、第10回は、話題のジャングリアなど県内の旅(団長・拓南製鐵の八木実社長)で3月26、27日に実施。参加者人数は101人(従業員37人とその家族64人)にのぼった。

それぞれ、参加者を代表して旅の感想を寄稿してもらった。(敬称略)

第9回北陸社員旅行 予感通り 楽しい旅に

拓南製作所管理部管理課課長代理 喜友名千加子

今回の北陸社員研修旅行は、しおりに目を通した時から、楽しい旅になる予感でいっぱいでした。

富山県で見学した日本総合サイクル様では、鉄道やバスなどの解体をすべて建屋内で行っていて、外周にはゴミ一つ落ちていないほど整理整頓が行き届いているところが印象的でした。

また、五箇山・菅沼合掌造り集落では、昔ながらの日本の風景や残雪など、沖縄ではふだん、なかなか目にできない景色を満喫することができ、



（一社）日本クレーン協会 沖縄県支部の第15回定時総

拓伸会関係者3人に表彰状

日本クレーン協会沖縄県支部

5月

（一社）日本クレーン協会 沖縄県支部の第15回定時総会が5月15日、琉球オリオンホテルで開かれた。その席上、令和8年度優良クレーン関係業務従事者表彰(計6人)が行われ、拓伸会関係者3人に表彰状が授与された。まず、「優良クレーン運転士」の部(計2人)で、拓南製鐵の大城裕之氏(写真右から3人目)が表彰された。

大城氏は「これからも精進致します」と感想を述べた。一方、「優良玉掛け技能者」の部(計4人)では、拓南製鐵の大城雄一氏、拓南製作所の桃原康介氏(写真右から2人目)がそれぞれ表彰された。製鐵の大城氏は都合で出席できなかった(山川文誠次



長が代理出席)が、後日、「初心を忘れずに、安全作業で、次世代に良い見本となるよう努めます」と感想を寄せてくれた。一方、製作所の桃原康介氏は「表彰していただき、ありがとうございます。これからも指差し呼称を徹底し、安全第一・安全作業で業務を行ってまいります」とコメントした。

「還暦という節目の年に、優良従事者表彰を受けてうれしく思いました。定年まであと5年ちよつとですが、事故、ケガのないように頑張りたいと思います」



表彰状の贈呈



花城秀明氏(製作所)に表彰状

優良従業員表彰 沖縄県建設業協会

5月

（一社）沖縄県建設業協会は5月15日、第77回通常総会を沖縄ハーバービューホテル「彩海の間」で開催した。その席上、表彰式が行われ、拓伸会から拓南製作所の花城

秀明氏が優良従業員表彰を受けた。式典後、花城氏は「このように表彰をいただき、大変光栄に思います。支えてくださった皆さまに感謝し、これからも安全第一で業務に取り組みます」とコメントした。



きました。他にも、北陸の美味しいグルメはもちろん、グループ各社の方々との交流が楽しく、帰るのが寂しくなるくらい充実した旅行となりました。

このような素晴らしい社員旅行を企画していただき、ありがとうございます。皆さまとのつながりを大切に、今後の業務も前向きに取り組んでいきたいです。



率直に思ったことは感謝

中城村商工会(奥濱一樹会長)は5月21日、第49回通常総会を吉の浦会館で開催した。その席上、優良従業員表彰式が行われ、拓南製作所の呉屋るり子氏(勤務年数37年1ヵ月)に写真左を表彰した。

呉屋るり子氏(製作所)に表彰状

優良従業員表彰 中城村商工会

5月

式典後、呉屋氏は「この度、優良従業員というすばらしい賞をいただき、ありがとうございます。これも、管理課皆さんの支えがあったからこそだと思っております」と感想を述べた。

浦添地区防犯協会は5月22日、第42回定期総会を浦添警察署で開催した。その席上、感謝状贈呈式が行われ、西原グリーンセンターが表



彰された。同協会の大宜味朝雄会長は「防犯活動に対し、物心両面から支援していただき、多大な貢献をされた」と述べ、外間一成専務に写真右に表彰状を贈呈した。

西元隆志氏(薩南)に表彰状 優良従業員表彰 鹿児島県産産資源循環協会

（一社）鹿児島県産産資源循環協会は6月5日、通常総会を鹿児島サンロイヤルホテルで開いた。その席上、優良従業員表彰式が行われ、薩南物産の西元隆志氏(原料課車両班)が表彰された。優良従事者表彰は、同協会の会員の職員、協会の職員の中から、多年にわたり産業廃棄物処理業に従事し、その業務に精励し、他の模範となる功績顕著な方が推薦対象となり、選考決定される。西元氏は、入社以来26年間、解体現場や顧客ヤードへの集荷業務に従事し、会社のリサイクル事業拡大(自動車リサイクル)に伴い、車両系特殊資格取得や新技術の習得にも前向きに取り組んできた。また、若手後輩社員へ

表彰状の贈呈

た方へ、ありがとうございます。

率直に思ったことは感謝

拓南製鐵製造技術本部技術部主任 仲里 幸

実した旅行になりました。懇親会では、子供たちにくじ引きがあり、お菓子をもらった娘はとてうれしそうにしていました。お菓子の準備をしていただいた安慶名光史部長(拓南本社財務部)とご家族に感謝です。また、楽しい時間を過ごせたのも旅行を計画、準備をした方たちが尽力したおかげだと感じています。改めて研修旅行へ携わっ

拓南製鐵製造技術本部技術部主任 仲里 幸

